

《報告》

第36回社会経済史学会大会

安岡重明

本年度の社会経済史学会大会は、5月27日(土)、28日(日)、29日(月)の3日間にわたり、広島大学政経学部において行なわれた。例年のように、第1日目は自由論題報告、第2日目は共通論題報告、第3日目は見学であった。スケジュールはつぎのとおりであった。

自由論題報告 午前9時30分開始

第1会場 (日本史関係) 政経学部大講義室

- | | | | |
|---|-----------|-------|-------------|
| (1) 備後国太田荘に於ける在家支配と「村」の問題—特に「公文」を中心に— | 日本大学 | 鈴木 国弘 | 9.30~10.10 |
| (2) 毛利氏の貫高制について | 広島大学 | 松岡 久人 | 10.10~10.50 |
| (3) 宗門改帳を通じてみた—農村の人口史— —信州横田村、寛文11~明治4年— | 慶応義塾大学 | 速水 融 | 10.50~11.30 |
| (4) 薩摩藩における領主的商品生産についての—考察— | 鹿児島大学 | 原口 虎雄 | 13.00~13.40 |
| (5) 広島藩における藩営林の経営構造 | 比治山女子短期大学 | 道重 哲男 | 13.40~14.20 |
| (6) 明治初期における地方織物仲買の経営形態 | 早稲田大学 | 正田健一郎 | 14.40~15.20 |
| (7) 明治前期における北信製糸業の市場構造 | 中央大学 | 池田 正孝 | 15.20~16.00 |
| (8) 日本における鉱工業生産統計の信頼性について | 大阪大学 | 安場 保吉 | 16.00~16.40 |

第2会場 (東洋史関係) 政経学部135室

- | | | | |
|-----------------------------------|-----------|-------|-------------|
| (1) インド史における土地制度と権力構造—ムガル帝国期を中心に— | 東京大学 | 松井 透 | 9.30~10.10 |
| (2) 高麗朝の口分田と永業田 | 東京大学 | 武田 幸男 | 10.10~10.50 |
| (3) 華南山間地帯における客戸と客家 | 一橋大学 | 中川 学 | 10.50~11.30 |
| (4) 宋代黄河治水官僚機構 —とくに都水監について— | 鈴峯学園 | 吉岡 義信 | 13.00~13.40 |
| (5) 宋元における農業水利集団の性格 | 総合歴史教育研究所 | 長瀬 守 | 13.40~14.20 |

- (6) 清代江南における圩田水利の一
考察 九州産業大学 森田 明 14.40~15.20
- (7) 五四運動期の社会経済問題 広島大学 横山 英 15.20~16.00
- 第3会場 (西洋史関係) 政経学部134室
- (1) 14世紀イングランド教会領における農民の流動性について —グラ
△司教座聖堂付属修道院領の場合— 名古屋大学 森本 轟 9.30~10.10
- (2) 中世末北欧における毛皮取引 尾道短期大学 比嘉 清松 10.10~10.50
- (3) 14世紀前半におけるプロバンスの
農業の特質 神戸大学 山瀬 善一 10.50~11.30
- (4) 18世紀イギリスの経済成長
—1730年から1770年まで— 京都大学 川北 稔 13.00~13.40
- (5) イギリスにおけるexcise (国内消費税)
—その成立と展開— 広島商科大学 隅田 哲司 13.40~14.20
- (6) 三月前期におけるライン・ブルジョアジーの立憲運動 —特に
その住民における基盤について— 名古屋大学 久保 久次 14.40~15.20
- (7) 19世紀アメリカ海運通商企業家の特質
—ニューヨークを中心にして— 神戸商科大学 豊原 治郎 15.20~16.00
- (8) 第一次大戦後の植民地主義と経済発展
—市場構造を中心として— 関西学院大学 北村 次一 16.00~16.40

| | | |
|--------------|--------|-----------|
| 公開講演 | 午後6時開始 | 広島平和記念館講堂 |
| 開会の辞 | 慶応義塾大学 | 島崎 隆夫 |
| 日本経済史における「家」 | 京都産業大学 | 堀江 保藏 |
| 人口と経済史 | 早稲田大学 | 小松 芳喬 |
| 閉会の辞 | 広島大学 | 今堀 誠二 |

共通論題報告 午前9時30分開始 政経学部大講義室
「第一次大戦後における経済史の諸問題」

- 司会 東京大学 松田 智雄
広島大学 高橋 衛
東京大学 石井 寛治
- 問題提起 東京大学 安藤 良雄 9.30~ 9.50
- I 第一次大戦後におけるドイツ資本主義
とその国際環境 福島大学 岡本 友孝 9.50~10.40
- II 第一次大戦後における日本資本主義の諸問題
- (1) 重化学工業化の過程 埼玉大学 松島 春海 10.40~11.30
- (2) 財閥と綿工業 東京大学 柴垣 和夫 13.00~13.50

(3) 経済政策と経済団体

青山学院大学 三和 良一 13.50~14.40

綜 括・討 論

14.40~16.00

写 真 撮 影 午後4時

会 員 総 会 午後4時10分~5時 政経学部大講義室

会 員 懇 親 会 午後6時より 羽田別荘 (広島市舟入町8-40)

見 学 午前9時30分 広島大学政経学部玄関前出発

午後4時30分 広島市内にて解散

東洋工業—広島市内—宮島—原爆資料館

敵島神社解説

広島大学 河合 正治

自由論題報告で私のきいたのは、松井透「インド史における土地制度と権力構造」、速水融「宗門改帳を通じてみた一農の人口史」、原口虎雄「薩摩藩における領主的商品流通についての一考察」、池田正孝「明治前期における北信製糸業の市場構造」、安場保吉「日本における鉱工業生産統計の信憑性について」

松井氏の報告は、インド人学者の最近の研究を紹介しつつ、とくにムガル期のインド村落の史的 성격について論じられた。速水氏の報告は、信州横内村の寛文11年から明治4年にいたる人口動態をとりあつたもので、あたらしい分析視角を導入した本格的な研究で興味ぶかかった。私の印象では、速水氏研究で、日本の人口史研究も科学的なものになるだろう。原口氏の報告は、長年にわたる薩摩藩研究の成果の一端を示されたもので、ちょっと調べて論文をかく旅人的研究者の説の欠点を指摘しながらの報告は重みのあるものであった。ぜひ早く印刷にして頂きたい。安場氏の報告は、日本の鉱工業統計の信憑性および問題点について、主として方法的な問題をとりあつた。近代史研究にかならず必要となる統計の処理について、経済史家も勉強しなければならない段階にきたようである。

私のきいたうちにはひどいのはなかったが、やけに報告時間を延ばしてスケジュールをくるわせる人がいる。他会場の報告をきく段取りをしていますが、そのため、できなくなる。まったく困ったことだ。報告者の心がけの悪さもさることながら、司会者はもっと責任をもって、運営すべきだ。

共通論題報告は、第一次大戦後における経済史の諸問題、という論題で、本学会としては初めて、第一次大戦後をあつかったときく。都合あって松島・三和両氏の報告はきけなかった。私には柴垣氏の報告が面白かったし、教えられた。同氏の『日本金融資本分析』を一段と前進させた内容であった。